

22/3/4 名古屋市議会本会議 名古屋城部分

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

議長：次に日程2より第46まで、すなわち第1号議案令和4年度名古屋市一般会計予算より、第45号議案名古屋市国民健康保険条例の一部改正についてまで、以上45件を一括議題に供します。
この場合、質疑の通告がありますから、順次お許しいたします。
なお、この場合、議案がない質問も併せて行います。
最初に北野よしはるくんにお許しいたします。

北野よしはる（自民）： 皆さんおはようございます。私は自民党市議団の若手筆頭の北野でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

次に、名古屋城天守閣整備事業についてお尋ねをいたします。
この事業を少し振り返ってみますと、当初は令和2年7月に完成させることを目標にスタートし、その後、
令和4年12月を天守閣の完成期限とする基本協定を締結をいたしました。
しかしながら、平成30年には木造復元の許可を得られず、平成31年には木造復元に先立ち提出した現天守閣の解体申請の許可も得られず、
令和元年8月には完成期限を見直すことを、市長が公表をいたしました。
これいつになったらこの事業をするのか、市民も議会もみんながずっと心配をしております。
そのような中、令和3年6月に文化庁から、今後の手続き、進め方の所見をいただいたと聞きました。
当局は大きな一歩であると評価をいたしておりますが、事業を開始して既に5年が経ち、事業に遅れを生じさせていることに対して
全責任を持つと言っておられる市長の責任が大きいことは指摘をさせていただきます。
そこで観光文化交流局長に数点お尋ねをいたします。
まずは木造天守復元に使用する木材についてです。
平成30年7月に、令和4年の完成期限を目指して、柱、梁などに使用される、太くて長い貴重な木材を調達する先行工事、
木材の製材を約95億円で契約をしております。
江戸時代、名古屋城築城するため、裏木曾地域から大量の木材を調達したようですが、今回の木造復元のために、これまでに調達した木材はどこで調達したものでしょうか。
また、令和4年12月を完成期限としていた復元のスケジュールでは、既に木造天守の復元工事が始まっていたはずですが、
完成期限が延長となったことで調達した木材は、各地の倉庫に保管されたままとなっていると聞いています。

調達した木材はどれだけの期間保管されていますか。

さらに完成期限が定まっていないことから、保管期間が今後も延長される見通してあります。木材の保管料として、これまでどれだけの金額を費やしてきたのか、また今後どれだけの保管料が必要となる見込みなのか、お答えください。

次に、バリアフリーについてです。

木造天守のバリアフリーについては、昨年11月、市会本会議において、我が会派の浅井議員Vから、障害者団体と合意をしないまま昇降技術の公募を進めると、結局後戻りになってしまうとの指摘をしたと思いますが、本定例会において、木造天守の昇降技術の公募についての関連予算が上程をされています。

しかし、このまま昇降技術の公募は本当に開始できるのか、大変心配でなりません。

障害者団体との合意は得られているのでしょうか。

また、公募は一体いつ始められるのでしょうか、ご答弁をお願いをいたします。

折戸観光文化交流局長：観光文化交流局には、名古屋城天守閣整備事業について2点のお尋ねをいただきました。

まず木材の調達、保管および保管料についてでございます。

木造天守閣の復元に必要な柱、梁などの主要な構造部に使用する木材は大変貴重であり、簡単に集めることができないものでありますことから、

平成30年7月の契約以降、優良な木材を確保するため築城時に繋がりのある岐阜県をはじめ、近隣では奈良県、遠方では高知県や岩手県といった四国や東北地区に至るまで、全国各地から調達しております。

現在に至るまでに、全体数量2,323本のうち約9割となる2,071本の木材を調達しております。

調達した木材の保管期間としては、長いもので約3年となります。

木材の保管量といたしましては、令和3年度末までに約3億円を支払うことになり、令和4年度以降についても、年間約1億円を見込んでおりますが、

基本協定に係る事業費の上限額を超えることのないようにしてまいります。

次に昇降技術の公募についてでございます。

障害者団体の皆様からは、天守閣の木造天守のバリアフリーにつきまして、エレベーターの設置を望む考えをいただいております。

本市としましては、障害のある方もない方もともに文化財を快適に楽しめるよう、バリアフリーとすることは必須であると認識しております。

障害者団体とは、障害者団体連絡会のような全体会議のほか、各団体への個別の訪問や会合への出席を行い、公募に関しての説明や意見交換を実施しながら、

史実に忠実な復元とバリアフリーの両立を目指して公募の検討準備を進めてまいりました。

こうした中で、本公募における高齢者や障害者の方々のご意見を伺いながら、昇降技術を選定していくという市の姿勢につきましては、

一定のご理解をいただいているものと認識しております。

公募につきましては、令和4年度末の全体計画の取りまとめに向けて進めることを、念頭に置きますと、令和4年度早々には公募を開始してまいりたいと考えております。以上でございます。

北野よしはる（自民）：次に、名古屋城天守閣整備事業についてです。

今回これどうしてこの木材についての質問をしたのかと言いますと、それは極めてこの詰めが甘い事業計画の中で、材料だけをただひたすら集めたがいいが、使うことができず、莫大な保管料だけを支払わなければならない。

こういった信じがたい現状を市民にも改めて明らかにするためであります。

おそらくこの事業を始めた当初には、木材保管期間がこれほど長期化することは想定していなかったでしょう。

現実は今、局長から答弁がありました通りで、年間約1億円の木材保管料、が毎年必要となってまいります。

この2月定例会におきましても、天守閣整備事業に係る予算として、木材の契約に伴い、2月補正で、債務負担行為を、

また木材の契約とは切り離して別契約とする木材保管に伴う当初予算を上程されています。

これ事業が予定通り進んでいけば、こうした別契約の必要がなかったはずですね、これ。

木造化をした天守閣を早く見たいという市民の声をよく聞きます。

文化庁としっかりと丁寧に協議をし、確実に計画を作っていくのは当たり前でありますけれども、1日も早く調達した木材を使って、

木材復元をした天守閣を市民にも見てもらえるように、スピード感をもって進めてもらいたいと思います。

それがひいては追加負担となる木材保管料を少しでも減らすことに繋がるのではないのでしょうか。

また昇降技術の公募については、本市の姿勢に、障害者団体の皆様から一定のご理解をいただいているということで、これは安心をいたしました。

とはいうものですねこれ、この昇降技術につきましても、当初からこういう問題をあらかじめ想定していれば、揉めることもなかったわけで。市民への説明や理解が足らなかったと言われても仕方ありません。

ちなみにこれ、平成28年に熊本地震で被災をした熊本城、市民の理解を得ながら、工事を着実に進められ、天守閣は昨年3月、既に復旧工事が完了し、

その姿は熊本市民に大きな喜びをもたらしているということでもあります。

その一方で、私どもの名古屋城天守閣整備事業は遅々として進まない現状に、多くの名古屋市民が落胆をしています。

最近では名古屋城と、市民の方に話をしますと、まあと言って首をかしげられるマイナスのイメージが浮かぶ市民の方が増えてきているのは、非常に残念ではありません。

この夢と歴史ロマンの象徴としての本来のイメージを取り戻すべき、しっかりと事業に取り組んでいただくことを強く要望いたしまして、この件は以上とさせていただきます。

江上博之（共産・中川区）：第４に、名古屋城天守閣の木造復元の見直しについてです。名古屋城の天守閣木造復元事業で、木材の保管料約１億円の予算が出ております。

この事業の見通しが不明なことは明らかです。

２月１７日に石垣埋蔵文化財部会があり、傍聴いたしました。

小天守の木造復元のための仮設工事に石垣などが耐えるのかの審議です。

小天守の西側石垣が濃尾大地震で破壊され、遺構すらはっきりしないことが明らかです。

仮設工事の方法がこれでいいのかと、さらに検討となりました。

木造復元で、今まで調査しなかったことを調査することになり、調査をすればするだけ問題が出てまいります。

石垣調査のため、天守木造復元が何時になるかわからないのに、今買わなければなくなると言って、木材購入を強引に行い、

拳句の果て、今度は買った木材の保管が必要だからと、木材保管料を毎年毎年、１億円参加するというのです。

そこで質問いたします。

強引な木造復元は中止したらどうでしょうか。

名古屋城を全体の修繕保全を行い、あるものは残し、ないものの復元など、総合的かつ計画的な名古屋城全体としての魅力向上を求めます。

河村市長： 木造天守閣ですね。

木造天守閣についてはこんなの整備基本構想において、近世紀最高水準の技術に築城された名古屋城の象徴である本丸の姿を

現代に再現するという理念を掲げ、現存する遺構や建造物等は適切に保存して、確実に後世に継承し、改変された遺構や

消失建造物等は段階的に復元していくという基本方針のもと、本丸御殿に続けて、その中心的構造物として建造物として

復元事業を進めています。

また木造天守閣の復元だけでなく城郭庭園として、最大級の二の丸庭園城跡にふさわしい景観保全、金シャチ横丁による

おもてなし機能のさらなる充実など、これらの相乗効果を発揮されることで名古屋城全体の魅力はより一層高まるものと認識しております。

江上博之（共産・中川区）： 最後になりますが、木材保管料には1億円使って、一方で構成員大切なものを廃止する、お金のことで廃止する、とんでもない。コロナ対策やコロナ対策の後を見据えて、私は全力を尽くしていきます。傷つけられた名古屋の民主主義。市民の名誉を取り戻すために全力を尽くすことを申し上げて質問を終わります